

第1回吉野町小中一貫教育校開校検討委員会 議事要旨

| | |
|-----|-----------------------|
| 日 時 | 令和2年7月21日（水）午後7時～午後9時 |
| 場 所 | 吉野町中央公民館 大ホール |
| 出席者 | 別紙名簿のとおり |

1. 開会

2. 委嘱状交付

- ・代表（区長連合会 山田 芳雄 氏）に交付。
※各委員、別途配布。

3. 町長挨拶

第1回の小中一貫教育校開校検討委員会にご出席賜り、ありがとうございます。学校関係者の皆様をはじめ、多くの皆様のご尽力を賜り、本日を迎えることができました。議会においても、ハード面においてご承認いただき、今年度より建築工事を進めていく予定です。

新型コロナウイルスの影響により、今までにない形での社会、経済活動、子どもたちの教育に取り組んでいかなければならない状況になっております。特に3月から休業があり、約3カ月間、子どもたちは不安やさまざまな気持ちで過ごされたと思います。まだまだ感染者が増加している中、子どもたち、保護者の皆様、学校の先生方をふくめ、全ての方がこれからの新しい時代に向けて、どうやって乗り越えていこうかというところではないかと思えます。小中一貫教育については、2つの大きな転換期を迎えているかと思えます。1つは、コロナの影響により、オンライン授業、ICTなどが、遠隔地ということでクローズアップされました。これから、子どもたちにいかなる時でも教育環境を整える責務が行政にあると思っています。2つ目は、従来コロナがなければインバウンドが進み、2020年には4,000万人の外国人の方が日本を訪れる目標で進んできました。そういう面からも英語教育が小学3年生から進み、コミュニケーション力を高めるためにも英語教育に力を入れていかなければならないと思っています。この2つの要素がこれからの学校教育に求められるのではないかと思っています。地方の取り巻く環境は、教育資源なる自然と人、今抱えている少子高齢化といった課題が地方にあります。これらの課題に対して、子どもたちが現場でさまざまなことを見る機会を通じて学び、解決していくことで、地方創生は教育からというところにつながるのではないかと考えています。

吉野町は昭和31年に合併するまで、各地域に小学校がありましたが、人口減少、子どもの数が減り、統合を繰り返し、現在、吉野町小学校、吉野北小学校になっています。それぞれの地域の歴史や文化を育て、その個性豊かな環境で育ってきました。現在、小学校2校になり、ふるさと教育も含めて、今までの6か町村以上にそれぞれの地域の特色を学ぶことができるようになってきていると思います。そして、今回1つに統合されます。吉野町、吉野町の教育にとって、集大成の時はないかと思えます。これから、この小中一貫教育校が、新しい子どもたちにとって時代を切り開いていく学校になればと思っています。本日は、開校に向けた検討委員会のスタートでございます。先生方、保護者の皆様、役員の皆様、地域の皆様、教育委員会の皆様には、このコロナの時代だから

こそ新しい価値観、新しい学びをこの小中一貫教育校で生きる力を育むという観点から、校章、校歌等、昔の歴史を学ぶこともあろうかと思っておりますので、いろいろな視点からご意見をいただき、素晴らしいスタートがきれることを皆様をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

4. 教育長挨拶

第一回開校検討委員会にご出席を賜りまして本当にありがとうございます。また、先日は各 PTA の会長、副会長様には、基本設計の配布についてお力添えをいただきましたこと重ねて御礼を申し上げます。

町長の挨拶にもありましたが、コロナウイルス感染症が2月から拡大して参り、3月から臨時休業になり、この間、一部登校があったものの、本町におきましては5月17日まで小中学校においては臨時休業となりました。それから半日授業を通して、本来であれば夏休みに入る時期でございますが、長期休業の遅れを取り戻すと言うことで子どもたちはがんばって登校してくれております。8月7日に1学期の終業式、8月24日から2学期が始まります。私も教師人生の中ではじめての経験でございますが、皆様方のご理解とご協力があって、吉野町の教育を先生方とともに進められているという状況でございます。本当にありがとうございます。

今日、第一回の検討委員会を開催できましたこと本当にうれしく思っております。平成29年11月に吉野町の教育のあり方を教育振興審議会で検討を開始していただきました。今の社会を見ますと本当に昔は10年一昔と言うような形で10年間たったらちょっと様子が変わるなあと言うことでしたが、本当に1年2年の間にびっくりするぐらい社会が変わっていく、今までなかったものが当たり前のような生活になっていく、その先のわからない社会がこれから加速されていく中で子どもたちがどんな力をつけていけば、変化が激しい中で生き抜き、そして活躍できる子どもを育てることができるかと考えました時に、今までのように小学校は小学校、中学校は中学校と言う短い期間でつけられる力ではなく、9年間を通した中ではじめて、物事をしっかりと考え、そして判断して、自分の力で表現していく力が身についていくものではないかと思っております。

教育振興審議会の施設検討部会の方で、いろんな組織の方々にお集まりをいただき、方針を出していただきました。それに基づいて、教育委員会の方で吉野町の小中一貫教育の基本方針を平成30年11月に作成させていただき、平成31年1月に各保護者の皆様方にも配布させていただきました。現在、基本方針に基づいて、順次、事業を進めさせていただいております。学校におきましては、私は平成28年5月に教育長に就任してから、小学校6年生の授業に中学校の先生が出向いて、小学校の先生と一緒に授業を行うなど、共同の授業を始めました。また、修学旅行についても、今年はどういう方向で実施できるかを相談してもらってるわけですが、今まで別々に行っていた小学校の修学旅行を去年は一緒にいきましょう、今年是一緒に行動していきましょうというようなことで計画を少しずつアップさせて参りました。今年にはコロナ感染症のことで今後の対応をまた検討していかなければいけないわけですが、このようにステップを踏んでまいりました。昨年11月の懇話会の際にお話させていただきましたが、新たに小中一貫教育校を開校していくにあたり、新たな組織、ルールを作っていかなければいけない、システムを作っていかなければいけないということで、今回開かせていただきました検

討委員会で皆さん方とともに吉野町の教育を作り上げていくという観点からご検討いただきたくたいとすることで説明させていただいた折には5月に開催をさせていただきますとすることで進めておりましたが、コロナの影響により2ヶ月遅れました。今日、検討委員会を開催させていただくこととなり、これから本当に吉野町の教育を皆様と共に検討していけるんだなという嬉しさとこれから先いろんなことをともにご協議いただかなければいけない、皆様方にご協力をいただかなければいけないというお願いの気持ちでいっぱいです。皆様にお願いになりますがこの後、いろんなことを協議していただいて吉野町の新しい教育を作るということでお力をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

5. 委員紹介

(事務局)

- ・別紙「資料1」により紹介。

6. 委員長・副委員長選出

| | | |
|------|------------|---------|
| 委員長 | 学識経験者 | 上平 喜英 氏 |
| 副委員長 | 吉野中学校PTA会長 | 松尾 幸弘 氏 |

7. 吉野町が目指す小中一貫教育校

(事務局)

- ・吉野町が目指す施設一体型小中一貫教育校について考えの共有を目的として、別添資料により説明。以下、概要。
- ・吉野町は、小中一貫教育校と呼び、令和4年4月に2校が統合した新しい小学校ができ、吉野中学校はそのまま残す。
- ・吉野町は、新小学校と中学校をあわせて一貫教育校にしていく。小学校、中学校を基本に置きながら、教育内容において、9年間の系統性のある教育を目指す。
- ・校長は、小中学校で1人が兼務。
- ・吉野中学校の名称は残る。新小学校の名称、小中一貫教育校としての名称が新たに生まれる。
- ・小中一貫教育を進めるために、小学校、中学校の行き来が自由にできる一体型の施設を設計中。小中学校の職員が一つの施設、職員室において協同で教育を進めていく。

8. 開校検討委員会の「位置づけ」

(事務局)

- ・資料3、4により説明。以下、概要。
- ・本委員会では、校名、校歌、校章、制服、通学方法、PTA組織の6つを検討し、指針を示していただく。
- ・本委員会の意見を事務局で集約し、教育委員会、町へ上げ、決定していく。
- ・必要に応じて専門部会を設置する場合がある。(他校例：新制服の制定)
- ・小中一貫推進委員会は、教育の中身について議論し、より良い教育を作っていくための組織であり、既に平成30年度から教育委員会、事務局、小中学校で組織済。

9. 案件

(1) 開校検討委員会の「実施計画・検討課題」

(事務局)

- ・資料5により説明。
- 質疑なし。

(2) 「校名」について

(事務局)

- ・資料6により説明。

①新小学校名について

- (委員) 吉野北小学校もあるため、新しい学校名(例:美吉野小学校)を検討すべきではないか。
- (委員) 新小学校名について、個人的には「吉野小学校」が自然な形だと思うが、広く意見を聞く必要があるため、持ち帰り検討したい。
- (委員) 過去の変遷を見ていると過去にも同様の議論がなされているのではないか。「吉野小学校」「吉野北小学校」また、「吉野中学校」になった経緯を踏まえて検討できないか。
- (委員) 過去の変遷を見れば、「吉野小学校」になるのではないか。

【結果】

- ・吉野北小学校もあるため、新たな学校名を検討すべき等の意見もあったが、過去の統合の変遷等を踏まえ、「(新)吉野町立吉野小学校」を案として各団体で持ち帰り意見を集約することとする。

②小中一貫教育校名について

- (委員) 子どもたちが関わることができるよう、小中一貫教育校名について子どもたちからの意見を募集してはどうか。
- (委員) 子どものアイディアベースでは、「にこにこ学園」「元気学園」等も想定されるが、子どものアイディアをそのまま活かすのか。子どもたちの意見を最後に大人が変えてしまうのであれば、子どもたちに聞く意味があまりなくなるのではないか。
- (委員) 過去の統合の変遷を踏まえ、「吉野」は残すべきではないか。
- (事務局) 「吉野〇〇学園」または「吉野〇〇小中学校」として、「吉野」は残した上で、「〇〇」の部分について、子どもたちのアイディア・発想を聞くことを想定。子どもたちの意見をそのまま2、3つの案に絞って委員会に諮るか、子どもの意見から連想される言葉に言い換えて集約して委員会に諮るか、子どもの意見を全て委員会に諮るか、集約方法等も本委員会で方向性を示していただきたい。
- (委員) 子どもたちの意見をそのままの表現で委員会に提示し、検討すべきではないか。子どもたちには、吉野にふさわしい学校名といった一定の制限を設けて募集すればいいのではないか。

【結果】

- ・「吉野町立吉野小中一貫教育校 吉野〇〇学園」をベースに子どもたちの意見を反映した学校名を検討することとする。
- ・ただし、子どもたちのアイディアベースでは、「吉野にこここ学園」等も想定されるため、子どもたちへのアンケートの問いかけ「設問」は事務局で検討後、アンケートを実施し、次回2，3つの案に絞った形で事務局より提案する。

③その他

(委員) 新たな小中一貫教育校及び小学校の名称について、委員会で検討された後にどのように決定されるのか。

(事務局) 本委員会の意見を最大限に尊重し、教育委員会を経て、町が条例で定める。

(3) 次回開催について

- ・3か月後の10月末を予定。別途、事務局から2週間前に開催日時のご案内、1週間前に会議資料を送付する。

(4) その他

- ・次回の検討事項について、事務局より事前告知。事前に各団体で意見を集約することとする。

(検討事項)

- ・検討課題Ⅰ 「校名」について
- ・検討課題Ⅱ 「校歌」について
 - 案1) 小中一貫教育校で校歌1つを制定
 - 案2) 小学校1つ、中学校1つの校歌を制定